

第 47 回 日本木材学会 北海道支部 研究発表会の報告

北海道支部理事 佐野雄三（北海道大学）

平成 27 年 11 月 13 日（金）、旭川市（旭川地場産業振興センター）にて第 47 回 日本木材学会 北海道支部 研究発表会が開催されました。口頭発表 6、ポスター発表 13 の計 19 件の研究発表がありました。また、北海道大学 大学院農学研究院 森林化学研究室に短期滞在中の北京林業大学・趙広傑教授による特別講演「溶液化木材をもとにした活性炭素繊維の調製 ―細孔構造と吸着特性―」も行われました。参加者は 60 名でした。学会本部から福島和彦副会長が来場されました。

プログラム終了後、本会の福島副会長より特に口頭発表について発表者の励みになるような心温まる講評をいただきました。全来場者の無記名投票により選出される北の木材科学賞は、下記 3 件が受賞しました。

<口頭発表部門>

「PEG リグニン由来の電気二重層キャパシタ用セパレータの開発」

○久保田惇, 磯崎友史（北大院農）, 山田竜彦（森林総研）, 幸田圭一, 浦木康光（北大院農）

<ポスター発表部門> 得票同数により 2 件選出

「ミズナラ外樹皮由来のトキシプラズマ症治療薬シードの探索」

○遠藤麻理奈（北大農）, 重富顕吾, 三橋進也, 五十嵐 慎（帯畜大・原虫研）, 生方 信（北大院農）

「水溶性酢酸セルロースの電界紡糸とコンポジット化」

○鶴原正啓, 幸田圭一, 浦木康光（北大院農）

発表会後には旭川大雪地ビール館にて懇親会が行われました。33 名の参加があり、本会の福島副会長を交えて親交を深めました。

研究発表会、懇親会とも、例年に比べると学生の参加が多く、会場では発表者と聴講者の活発なやり取りも見られました。しかし、計 19 件の発表者の所属が北海道総合研究機構林産試験場と北海道大学の 2 機関だけであったのは寂しいことでした。次の行事は、6 月の研究会です。まだ検討段階ですが、北海道新幹線開業に因み、道南地域の木材資源を話題にして函館あたりでの開催になる見込みです。